ふりがな　　たけうち　かん

氏 名　　竹内 幹

1. 学歴

1998 年　3 月　一橋大学経済学部卒業

2000 年　3 月　一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了

2007 年　8 月　ミシガン大学経済学部博士号取得（Ph.D. in Economics）

2. 職歴・研究歴

2007 年　9 月　カリフォルニア工科大学人文社会科学部研究員

2008 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科専任講師

2011 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科准教授

2022 年　4 月　ミシガン大学 School of Information 客員研究員（2023 年 3 月まで）

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

実験経済学，Public Economics，公共経済学

（b）大学院

実験経済学，Public Economics，公共経済学，経済学基礎論Ⅱ

B. ゼミナール

学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学生の皆さんには，講義を通じて「教養としての経済学」を身につけてほしいと考えています。経済学は必ずしも明日の生活に役立つものではありません。すぐに景気予測ができるようになるわけではないですし，卒業生が全員，エコノミストになるわけでもないでしょう。しかし皆さんが将来どんな職業に就くとしても，経済学の考え方の枠組みは思考の助けになります。

私のゼミでは，学生 1 人 1 人が興味を持っている社会問題や経済事象について，経済学的の枠組みを使って理解を深め，データや事例を使って説得的な主張を展開することを目指します。ほぼすべての事象について，関連する経済学の先行研究があります。それらを学ぶことで，物事を分析的にとらえることの厳格さや，その意義または限界について，よく理解できるはずです。それこそ大学で学ぶべきことだと私は信じています。そして，ゼミナールは「日々新たな発見と感動を得られるような教育」の場でもあります。将来は社会や組織をリードする学生たちが，経済学だけにとらわれずに，広く文化教養に触れておくことができるように，経済学以外の読書や文化活動もゼミナール活動のなかに取り入れています。

4. 主な研究テーマ

専門は，実験経済学，行動経済学。主に，意思決定や時間選好の研究に取り組んでいます。

(1)時間選好に関する経済実験

人は，将来得られる大きな利得よりも，少ない利得を現在得ることを好む傾向があります。時間選好とは，現在と未来のトレードオフに直面する個人の意思決定にかかわる選好のことです。近年，経済学ではこの時間選好に関する研究(貯蓄・投資行動，退職や医療行為の意思決定，依存症の治療など)が進んできました。

私は，利得発生の遅延を現在時点でのリスクに置換する経済実験を行い，リスクと遅延の正の相関を確認しました。このようにリスク選好と時間選好の両方が同時に働く意思決定をテーマに研究を続けています。

(2)アイトラッキング(視線)

人の意思決定と視線には密接な関係があります。したがって，視線(どこを見ているか)を観察することで，その人の意思決定過程を推測することができます。また，逆に視線を誘導することによって，間接的に意思決定に影響を与えることもできるのです。この相互関係についての実験を行い，データを分析しています。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Essays on Time Preference and Combinatorial Auctions, Doctoral Dissertation, University of Michigan, 2007.

"Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," In Ikeda, S., Kato, H. K., Ohtake, F., and Tsutsui, Y. (eds) *Behavioral Economics of Preferences, Choices, and Happiness*, pp. 77-116, Springer.

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "Multi-Object Auctions with Package Bidding: An Experimental Comparison of Vickrey and iBEA," *Games and Economic Behavior*, Vol. 68, March 2010, pp. 557-579. (with Yan Chen).

* "Scheduling with Package Auctions," *Experimental Economics*, Vol. 13, December 2010, pp. 476-499. (first author, with John C. Lin, Yan Chen, and Thomas Finholt).

* "Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," *Games and Economic Behavior*, Vol. 71, March 2011, pp. 456-478.

* "Time Discounting: The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study," *Journal of Behavioral Economics and Finance*, Vol. 5, June 2012, pp. 2-9.

「耐震マンションを好む人はどこを見ているか：アイトラッカーを用いた研究」(齊藤誠と共著)齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房，2012 年，207-229 頁。

「アイトラッキングの可能性」齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房，2012 年，230-241 頁。

「医療における行動経済学とナッジ」『医療経済研究』，31(2)，2020 年，65-76 頁。

「曖昧さ回避・税制・投資行動：経済実験データによる考察」井堀利宏監修『資産の形成・世代間移転と税制』日本証券経済研究所，2021 年 9 月，291-309 頁。

「社会保障のための行動経済学：補正か誘導か?」『社会保障研究』，6 巻 3 号，2021 年，233-244 頁。

（d）その他

「パターナリズムはそこにあるのか―先延ばし行動の経済モデルで考える」『法と哲学』，第 8 号，2022 年，133-160 頁。

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

「リスクと曖昧さの行動経済学」，第 8 回アジア政策フォーラム（中国人民大学,，2018 年 11 月 1 日）

「The sad music changes risk preference」，第 22 回実験社会科学カンファレンス（名古屋市立大学，2018 年 12 月 22 日）

「科研費：申請準備から採択まで」，日本経済学会 2019 年度秋季大会若手・女性支援特別セッション（神戸大学，2019 年 10 月 13 日）

「行動経済学の教育」，行動経済学会第 13 回大会（名古屋商科大学，2019 年 11 月 9 日）

「Eye tracking for Debiasing the Present Bias」，第 23 回 実験社会科学カンファレンス（明治学院大学，2019 年 12 月 1 日）

*「Panel Discussion "Neuroeconomics"」，日本経済学会 2020 年度秋季大会（2020 年 10 月 11 日）

「Traffic Information and behavioral change: geofence data analysis」, 2022 ESA World Meetings（MIT, 2022 年 6 月 15 日）

「Pessimism as a determinant in decision-makings: An answer of machine Learning approaches」, 2022 ESA World Meetings（カリフォルニア大学サンタバーバラ校，2022 年 11 月 11 日）

（b）国内研究プロジェクト

「昆虫を使った経済実験による意思決定理論の実証」文部科学省科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究，2016 – 2019 年度，研究代表者。

「低炭素型の行動変容を促す情報発信（ナッジ）等による家庭等の自発的対策推進事業」 株式会社 NTT ドコモ・学校法人立命館とのコンソーシアム，2021 年 1 月– 2022 年 3 月，一橋大学側研究代表者。

（d）研究集会オーガナイズ

日本経済学会 2018 年度秋季大会・プログラム委員，2018 年 9 月 8 – 9 日

第 12 回行動経済学会・プログラム委員，2018 年 12 月 8 – 9 日

日本経済学会 2020 年度秋季大会・プログラム委員，2020 年 10 月 10-11 日，立正大学

第 14 回行動経済学会・プログラム委員，2020 年 12 月 12-13 日，オンライン

第 15 回行動経済学会・プログラム委員長，2021 年 12 月

C. 受賞

Outstanding GSI Award, University of Michigan（2000 人以上の講師のなかから優秀な 20 名に与えられる最優秀講師賞），2006 年 3 月。

早稲田大学ティーチングアワード総長賞 実験経済学Ⅰ, 2020 年 1 月。

6. 学内行政

（b）学内委員会

入学試験実施専門委員長（2018 年度）

キャリア支援室室長（2019 年度 － 2021 年度）

学生委員（2019 年度 － 2022 年度）

入学試験実施専門委員（2020 年度）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

早稲田大学政治経済学部,「実験経済学 A」, 2018 年度

早稲田大学政治経済学部,「実験経済学 I」, 2019 年度

神戸大学, 「実験経済学」, 2018 年 8 月

東京理科大学,「経営行動科学特論」, 2018 年度 － 2020 年度

（b）所属学会および学術活動

Economic Science Association

American Economic Association

日本経済学会

行動経済学会（常任理事 2020 – 2023 年度）

Associate Editor, Economic Inquiry 誌（2010 年 8 月 － ）

Associate Editor, Japanese Economic Review 誌（2015 年 6 月 － ）

（d）高校生向けの出張講義・模擬講義

出張講義（神奈川県立多摩高校）2018 年 11 月 27 日

出張講義（東京都立南多摩高校）2019 年 10 月 23 日

出張講義（東京都・成蹊高等学校）2021 年 6 月 3 日

（e）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

「意思決定のバイアス：行動経済学が示す非合理的な投資行動」（日本証券アナリスト協会, 2018 年 8 月 6 日）

「社会保障の中長期課題への対応に関する研究」プロジェクト研究会メンバー（2018 年 12 月 － 現在）

「新型コロナ禍での地域活動に活きる行動経済学とナッジ」（中野区町会連合会, 2020 年 7 月 30 日)

「行動経済学と『ナッジ』：意思決定は合理的か」（日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 FP フェア in 東京, 2020 年 10 月 11 日）

「家事・育児の行動経済学」（板橋区男女社会参画課いたばしパパ月間, 2020 年 10 月 15 日）

「行動変容を促す健康づくりの新しいアプローチ手法」（厚生労働省スマート・ライフ・プロジェクト, 2021 年 3 月 9 日）

裁判所書記官養成課程第二部研修・家庭裁判所調査官養成課程研修, 2021 年 3 月 16 日

「行動経済学と意思決定」（三鷹市生涯学習センター, 2021 年 6 月 18 日）

「経済学教育における行動経済学」（『行動経済学の死』を考えるシンポジウム, 2021 年 10 月 23 日）

「行動経済学とナッジ」（大正大学地域構想研究所, 2022 年 1 月 19 日）

「ジェンダー格差解消に資する経済学」（現場からの医療改革推進協議会・第 17 回シンポジウム, 2022 年 11 月

27 日）

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

法務省・司法試験予備試験考査委員（2011 年度 － 2022 年度）

文京区「ぶんきょうハッピーベイビー応援団」委員（2014 年 7 月 – 2020 年 6 月）

日本証券業協会「資産の形成・円滑な世代間移転と税制の関係に関する研究会」（2017 年 2 月 － 2021 年 4 月）

国立市保育審議会副会長（2015 年 2 月 － 2016 年 11 月，2018 年 8 月 － 2019 年 7 月）

RIETI 社会保障の中長期課題への対応に関する研究プロジェクトメンバー（2018 年 11 月 － 2019 年 9 月）

経済産業省ナッジユニットプロジェクト会合に係る委員（2019 年 6 月 － 現在）

9. 一般的言論活動

「定額サービスなぜ広がる」（コメント），『日経ヴェリタス』，2018 年 5 月 20 日。

「行動経済学と意思決定」『応用脳科学アドバンスコース「脳と認知・行動・社会」』，NTT データ経営研究所，2018 年 10 月 11 日。

「石先生から受けた御恩とゼミの思い出」『経済セミナー』，705 号（2018 年 12/2019 年 1 月号），53-54 頁。

「投機に乗らずに心理を知って広義の「投資」を」『ニューズウィーク日本版』，2019 年 10 月 8 日号，pp.32-33。

「世の中 SAKIDORI ナッジ理論」（出演），文化放送斉藤一美ニュースワイド SAKIDORI!，2019 年 11 月 22 日。

「（経済季評）株価の裏にあるもの 市場は「大惨事」忘れない」， 朝日新聞，2020 年 4 月 14 日。

「この人を訪ねて(19) 竹内幹さん 世の中に広がるナッジの手法」（インタビュー），『経済セミナー』，2020 年 4 月。

「【鼎談】社会で活きるナッジの手法（竹内幹×星野崇宏×山根承子）」『経済セミナー』，714， pp.7-17，2020 年 5 月。

「経済学としてのナッジ」『経済セミナー』，714，pp.18-22，2020 年 5 月。

「「隣の人洗ってる？」で石けん4倍消費 行動変える文言」， 朝日新聞（コメント），2020 年 5 月 8 日。

「人の行動を変える“ナッジ“で生まれる“新たな日常“ コロナ社会を効果的で前向きに過ごす方策とは？」（コメント），読売テレビ ウェークアップ！ぷらす，2020 年 5 月 13 日。

「新型コロナウイルスと行動経済学」（コメント），TOKYO FM 新型コロナウイルス関連情報，2020 年 5 月 20 日。

「ウィズコロナを考える 第2波の警戒と新日常 行動変える仕掛けとは」（ゲスト出演），BS 日テレ深層 NEWS，2020 年 6 月 3 日。

「（経済季評）経済学における人種主義 制度的差別の解消へ、挑め」，朝日新聞，2020 年 7 月 16 日。

「ウィズ・コロナ時代にも有用！一橋大学、竹内幹准教授に「ナッジ理論」についてお伺いしました」（インタビュー），TOKYO FM Think Japan，2020 年 7 月 19 日。

「早稲田大学ティーチングアワード総長賞「『学ぶ者として学生も教員も同じ』という姿勢で、大教室の学生一人ひとりと向き合う」，早稲田大学大学総合研究センター，2020 年 7 月 28 日。

「書評 那須耕介・橋本努[編]『ナッジ!?』勁草書房．支援なのか模範の押し付けなのか」『週刊読書人』，3354 号，p.7，2020 年 8 月 28 日。

「（経済季評）民主主義と経済発展 豊かさは討論尽くす先に」，朝日新聞，2020 年 10 月 15 日。

「ノーベル賞理論で子育てが捗る!?「ナッジ」で、よりよい子育てライフを！」（インタビュー）， ライオン株式会社 Lidea，2021 年 1 月 6 日。

「（経済季評）危機の時代の意思決定 責任の分散が招く鈍感さ」，朝日新聞，2021 年 1 月 21 日。

「（経済季評）最低賃金引き上げの意義 人として生きる費用必要」，朝日新聞，2021 年 4 月 22 日朝刊。

「ナッジ理論」について（インタビュー），TOKYO FM『ONE MORNING』，2021 年 5 月 13 日放送.

「（やさしい経済学）マーケットデザインを考える(1)～(10)」，日本経済新聞，2021 年 6 月 18 日−7 月 1 日。

「書評：数式から逃げない行動経済学の解説書『「意思決定」の科学―なぜ，それを選ぶのか』川越敏司（著）」，『行動経済学』，14 巻，10-12 頁，2021 年 6 月。

「行動経済学：迷いながら意思決定する人間」，河合塾みらいぶっく，2021 年 7 月 1 日。

「（経済季評）過ちと向き合うリーダー　謝罪は信頼回復のために」，朝日新聞，2021 年 7 月 15 日。

「行動経済学と「ナッジ」」，『旬刊経理情報』，No.1619，1 頁，2021 年 8 月 2 日。

「夏休みの宿題がいつもギリギリなワケ」（出演），NHK E テレ『思考ガチャ！』，2021 年 8 月 20 日放送。

「（経済季評）ゲーム理論で見る選挙　公約の差は理念の差」，朝日新聞，2021 年 10 月 21 日。

「（経済季評）下がり続ける実質賃金　インフレ、備える仕組みは」，朝日新聞，2022 年 1 月 20 日。

「（経済季評）命にも、青春にもつけられぬ値段　コロナ対策からこぼれた若者の未来」，朝日新聞，2022 年 4 月 20 日。

「経済学における再現性の危機――経済実験での評価と対応」，『経済セミナー』，通巻 726 号，30-34 頁，2022 年 6 月。

「（経済季評）女性に「負」を選ばせてきた社会　活躍推進より差別清算が先」，朝日新聞，2022 年 7 月 21 日。

「（経済季評）ノーベル賞、米大学君臨のわけ「無用の用」も覚悟の競争」，朝日新聞，2022 年 10 月 20 日。

「長寿リスクと終身年金　行動経済学を制度設計に活かすために」，企業年金連合会『企業年金』，11 月号，8-11 頁，2022 年 11 月。

「ナッジについて」（コメント），テレビ東京『池上彰の経済“新“辞典』，2022 年 11 月 20 日放送。

「（経済季評）「税の取られ損」感じるわけは　公共心、政府への信頼が鍵」，朝日新聞，2023 年 1 月 19 日。